



捨てられないもの

一般財団法人地域社会ライフプラン協会

廣澤 英治

仕事柄転勤も多く、家族との引っ越しの回数はトータル7回に及んでいます。転勤が決まった後は、多くの方も同じと思いますが、本人は送別会の連続で帰宅は深夜に及ぶことが多く、引っ越しの準備は妻（時々、渋々子供も）に任せっきり、ということがほとんどでした。

そのような非常に心安らかならざる妻から、毎回「捨てないの?」と強く断捨離を求められるものがあります。タテ36cm、よこ44cm、奥行き16cm、重さ18kg。（重たい…）その名は大学時代に購入した「TEAC A-2300オープンリールデッキ」。かつて愛用されていた方も多いと思いますが、現在のCDやスマホなどの音楽プレーヤー愛用者にとっては、何とも使いにくく、音質も劣るものであると思います。ただその存在感やリールの回るモーター音、左右の音量を表すインジケーターの針の動き、メタルリールの重厚感。思わず部屋の明かりを消してワインやブランドー、コーヒーを友として、音楽に浸りたくなる時を演出してくれます。

高校時代、サッカー部に所属していた私は、厳しい練習の合間に音楽をよく聞いていました。好きな音楽を好きな時に聞くことが出来る録音機はどうしても欲しいモノでした。私は親に対し、あらん限りの従順さを示し、懇願し、ある時は「しつこい」と叱られ、そしてやっとの思いでSONYのオープンリールデッキを手に入れたのです。

そんなある日、高校の友人宅を訪ねることになりました、というより私のほうから訪問を申し出たのです。同じオーディオに関心のある友人のところへ

行って、私のデッキの自慢話をしたくてしかたがありませんでした。ところが友人の部屋へ入った瞬間、衝撃を受けました。なんと黒く重厚感があり、SONYの文字を浮かび上がらせて輝きを放つオープンリールデッキが、据え置き型セパレートステレオのスピーカーの上に立っているのです。

友人が「これ買ってもらったんだ、3ヘッド、3モーター、ピアノタッチ…」。私にはそれ以降の彼の発言は耳に入りませんでした。「負けた…」私のデッキは同じSONYでも2ヘッド、1モーター、ワンレバー。再生、早送り、巻き戻しを1個のモーターで、そしてガチャガチャと1つのレバーで操作するものでした。

その日以来、絶対にSONY以外の3ヘッド、3モーター、ピアノタッチを所有しようと固く決心したのです。

そして昭和48年、大学の寮に入って生活費を削り、アルバイトをして、やっと秋葉原で見つけた現品限りの59,800円のTEAC。当時としては大変高価なものでした。捨てることなど出来ません。

少し時間が出来た今、40年ほど前に必死に録音したFM放送や、自分のレコードからダビングしたテープを、当時に思いを馳せながらゆっくり聞こうと思います。

そして、今宵わがTEACが奏でるのは、C. S. N & Yの「DEJA VU」。

